

ウェールズ・ジャパン 2025

文化プログラム

ウェールズ、日本。過去を大切にし 現在を健やかに生き、そして人と地球のためにより良い未来を築く役割を担う二つの国。何世紀にもわたって育まれた友情が未来へと焦点を合わせています。(ウェールズ政府「ウェールズと日本の年 2025」)



ウェールズ・ジャパン 2025

文化プログラム

将来の世代の幸福のために、カムリ(ウェールズ)と日本を結ぶ創造的かつ文化的な友情の架け橋

2025年秋、ウェールズと日本の中で、前例のない文化・創造的コラボレーションのショーケースが開催されます。ウェールズ・アーツ・インターナショナル、ブリティッシュ・カウンシル、そしてウェールズ政府が主導する21のクリエイティブ・プロジェクトが予定されています。ウェールズ・日本文化プログラムは、映画、音楽、文学、視覚芸術、テクノロジー、言語、ダンス、演劇といった分野を取り上げ、特に文化的な幸福と持続可能性に焦点を当て、ウェールズの先駆的な「未来世代の幸福法」制定10周年を記念するものです。

私たちの目的は、ウェールズと日本の上に深く根ざした文化的関係とクリエイティブエコノミーのつながりを育み、日本におけるウェールズ文化と価値観に関する知識を高め、ウェールズにおける日本についての意識を高めるよう新しいパートナーシップを生み出すことです。これは、世界的な問題に対するウェールズの対応の創造的なショーケースであり、パートナーにとって、日本、ウェールズと英国における将来の持続可能なコラボレーションと共同投資の可能性を探る機会となります。



wales arts international
celfyddydau rhyngwladol cymru



Cyngor Celfyddydau Cymru
Arts Council of Wales

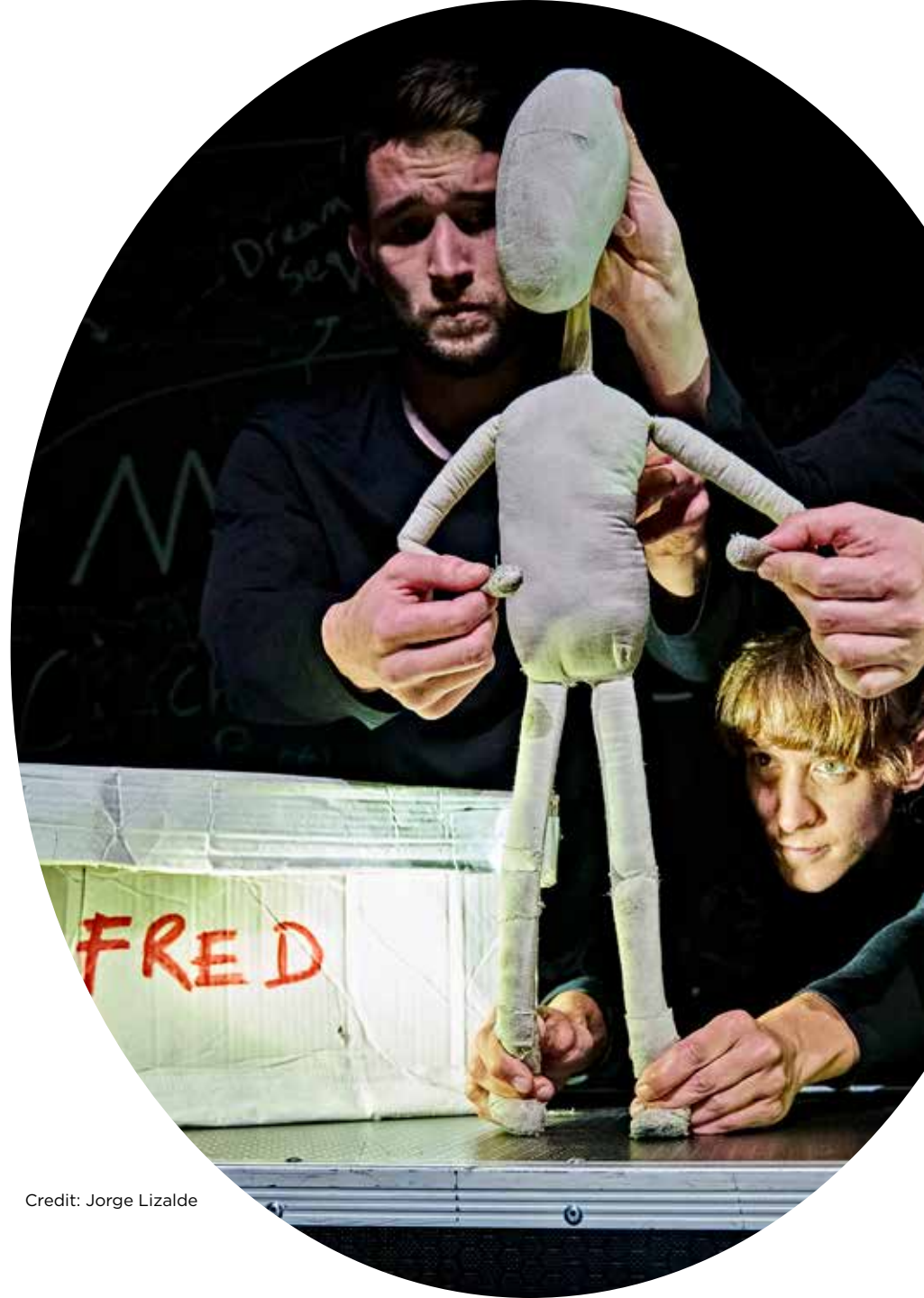


BRITISH
COUNCIL



ウェールズ & 日本
Cymru a Japan
Wales and Japan

Credit: Jorge Lizalde



ウェールズ・ジャパン 2025 文化プログラム

2025年秋のクリエイティブ・ショーケース:

HIJINX (ハイジックス): 『MEET FRED (フレッドに会おう)』日本公開

SLOW LABEL (スローレーベル) と鳥の演劇祭

東京・鳥取・大阪 2025年9月25日～ 10月8日

www.hijinx.org.uk | insta: @hijinxtheatre | fb: @hijinxtheatre

www.slowlabel.info/ | @slow_label | www.birdtheatre.org/ | @birdtheatre_festival

国際的に高く評価されている『Meet Fred (フレッドに会おう)』は、数々の賞を受賞している学習障害者と学習障害者でない人々が協力する劇団、Hijinx Theatre (ハイジックス・シアター) によって制作されており、日本で初めて公開されます。フレッドは、日本の人形劇の伝統にインスピレーションを受けた文楽の人形です。ソーシャルメディアでフレッドの旅が発信され、東京では SLOW LABEL と、鳥取では鳥の演劇祭とフレッドとキャストが協働する様子をご覧になれます。

CIAN CIARÁN (キアン・キアラン) : 『RHYS A MEINIR (リース・ア・マイニール: リースと女の子)』

新解釈 東京のチームラボボーダレスでプレミア・大阪関西万博の英国パビリオンでのトークセッション

協力 teamLab & Yamaha

東京・大阪 2025年10月11日～ 23日

www.cianciararan.com | fb: @c.ciaran

Super Furry Animals (スーパーファアリーアニマルズ) のメンバーによる古典的なウェールズ語の物語を革新的にピアノで再解釈、東京は麻布台ヒルズのチームラボボーダレスにて2台のヤマハ自己演奏ピアノを同期させて、オリジナルのオーケストラスコア、4手のためのピアノ曲を縮小したものが演奏されます。

GWENNO (グウェノ): 『UTOPIA (ユートピア)』日本公演

東京 2025年10月12日～23日

www.gwenno.info | insta: @gwennoasaunders | fb: @gwennomusic

ウェールズはカーディフ出身のグウェノは、数々の賞を受賞しているシンガーソングライター、エレクトロニックプロデューサー、サウンドアーティストであり、三言語(ウェールズ語、コーニッシュ語、英語)による最新のアルバム『Utopia (ユートピア)』を親密な雰囲気のお店イベントで、またラジオ番組で発表します。



wales arts international
celfyddydau rhyngwladol cymru



ウェールズ & 日本
Cymru a Japan
Wales and Japan

Credit: Clare Marie Bailey



ウェールズ・ジャパン 2025 文化プログラム

KELTRONIKA(ケルトロニカ)ケルト文化のカルチャークラッシュ

東京 2025年10月16日

MARK JAMES WORKS (マーク・ジェイムズ)

www.markjamesworks.com | insta: @markjamesworks

マーク・ジェイムズは、独立したマルチディシプリナリー・アーティストでありアートディレクターです。2022年の日本での初個展「カルチャー・クラッシュ」は、完売を記録しました。今回マークは、日本に再び戻り、ウェールズのアーティスト4人が出演するオーディオビジュアルなケルト文化のカルチャー・クラッシュ『ケルトロニカ』にて新作を発表します。出演アーティストはグウェノ、キアン・キアラン、マーク・ジェイムズ、ディーン・シグウィ(Dean Lligwy)。東京・青山のWall&Wallで開催されるこの限定的で多様なジャンルを横断するイベントでは、マーク・ジェイムズの新作また既存作品『Anomalies(アノマリーズ)』『Mountain People(マウンテン・ピープル)』『Culture Clash(カルチャー・クラッシュ)』が合わせて紹介されます。

ONLY BOYS ALOUD (オンリー・ボーイズ・アラウド): 日本での合唱団ツアー

大分・北九州・広島・東京 2025年10月8日～15日

www.aloud.cymru | insta: @aloud.cymru | fb: @thealoudcharity

歌を通じて若者に力を与える、ウェールズ全土を拠点とする先駆的な団体 Aloud(アラウド) は、少年合唱団「Only Boys Aloud(オンリー・ボーイズ・アラウド)」のメンバー12名を日本へ派遣します。大分や北九州の学校と6年間オンラインでコラボレーションしてきましたが、両国の若者が直接出会うのは今回が初めてで、多くの少年にとっては初めての海外旅行の機会となります。

THEATR CYMRU(シアター・カムリ)/NATIONAL DANCE COMPANY WALES(ナショナル・ダンス・カンパニー・ウェールズ): DAWNS Y CEIRW(ダウンス・ア・ケイル:鹿の踊り) & 創造的言語テクノロジー・ワークショップ

協力 世田谷ストリートアーツフェスティバル&ウポボイ国立アイヌ博物館と公園

東京・北海道白老 2025年10月15日～23日

www.theatr.cymru • ndcwales.co.uk | insta: @theatr.cymru • @ndcwales | fb: @TheatrGenedlaetholCymru • @NDCWales

ミュージシャンであり2022～23年度の児童文学桂冠詩人に選ばれたカシー・ウィン(Casi Wyn) によって書かれ、演じられるこの魅力的な作品は、シアター・カムリとナショナル・ダンス・カンパニー・ウェールズによる共同制作で、初めて日本にやってきます。東京の世田谷ストリートアートフェスティバルで子どもたちを対象に公演を行った後、同カンパニーは北海道のウポボイ国立アイヌ民族博物館・公園と協力し、「Sibrwd(シブルード)」技術の活用と、創造的な言語テクノロジーと先住民言語への応用可能性についてのワークショップを北海道で開催します。

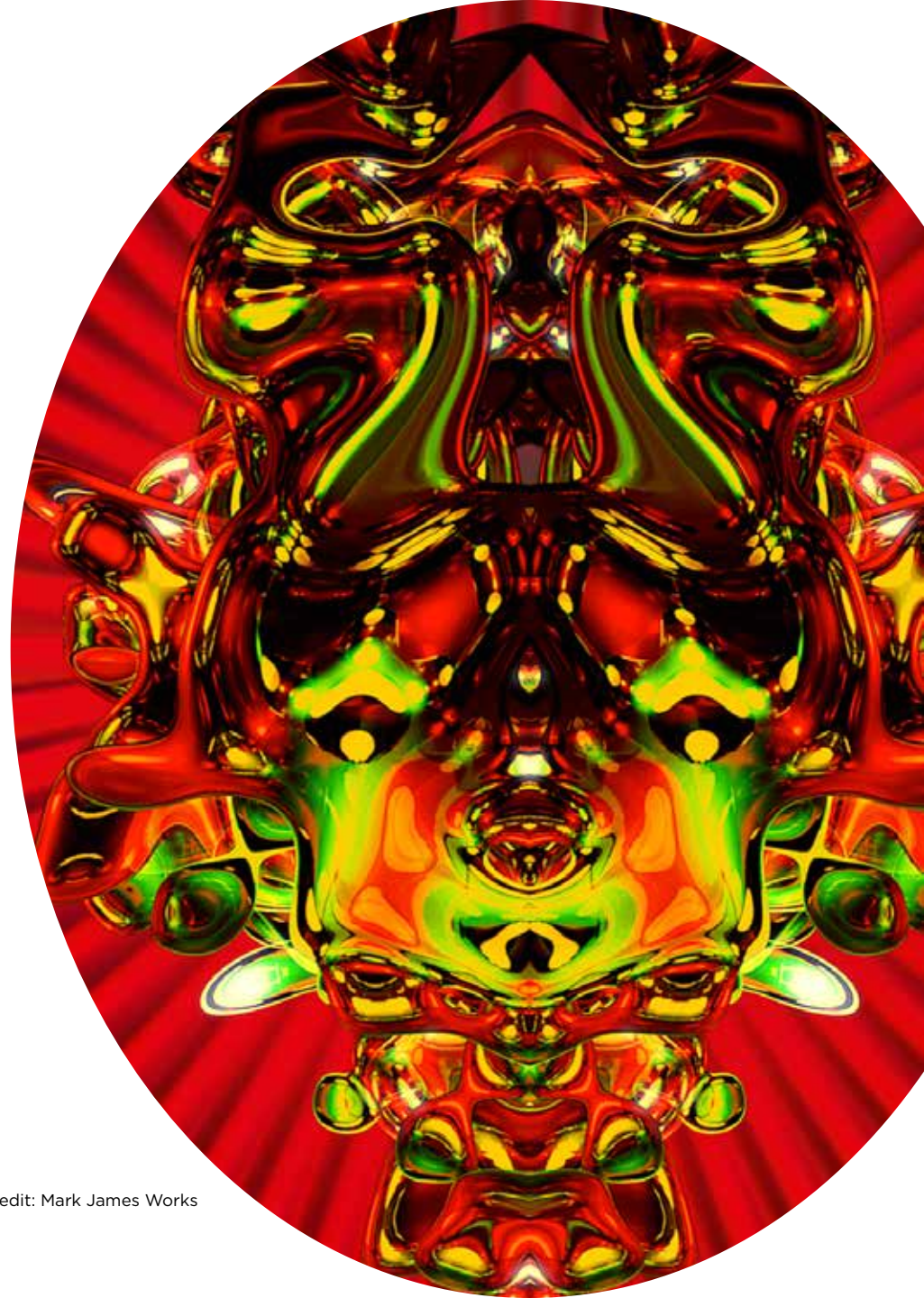


wales arts international
celfyddydau rhyngwladol cymru



ウェールズ & 日本
Cymru a Japan
Wales and Japan

Credit: Mark James Works



ウェールズ・ジャパン 2025 文化プログラム

KREU MEDIA(クルー・メディア) : 日本におけるウェールズ - 言語と映画

協力 Cinema Amigo

東京・逗子 2025年10月23日～ 30日

insta: @grifflynych www.cinema-amigo.com/ | @cinemaamigo

ウェールズの映画監督兼ミュージシャンであるグリフ・リンチがキュレーションを手がけたウェールズ語映画6作品が東京と逗子で上映されます。共催は日本ウェールズ協会、シネマアミーゴ、そして下北沢トリウッドです。短編イントロダクション映像には、ウェールズの芸術、詩、映画との出会いをきっかけにウェールズ語への情熱を抱いた、日本人話者の小池剛史と中内優子、2人の歩みが織り込まれています。

WALES ARTS INTERNATIONAL(ウェールズ・アーツ・インターナショナル) / ORCHARD MEDIA(オーチャード・メディア)& S4C:PETHAU BYCHAIN(ペタイ・バハイン:小さなこと)

東京 10月15日

オンライン、S4C グローバルプラットフォーム

@WAI CymruWales | @s4c | #PethauBychain 2025 | Arts Council of Wales

ウェールズ語テレビチャンネルS4CのPethau Bychain(ペタイ・バハイン) (オーチャード・メディア作成)が世界的にリリースされます。ウェールズ・アーツ・インターナショナルが委託したウェールズのウェルビーイング文化を多言語でショーケースする本プログラムは、未来の世代のウェルビーイング法の10周年を祝うために作成されました。詩人イエスティン・ティンがプレゼンターを務め、森純子をはじめとするウェールズ在住の日本人アーティストとその他7人のアーティストが出演します。無料で見ることができます。

PARTHIAN BOOKS (パーシアン・ブックス): TRANSPLANTABLE ROOTS(移植可能な根):文学、歴史、物語、写真を通して文化的なつながりを探る

協力 日本ウェールズ協会

東京・大阪 2025年10月

www.parthianbooks.com | insta: @parthian_books | fb: @parthianbooks | www.cdsjapan.jimdofree.com/ | @stdavidsjapan

このプログラムでは、出版社パーシアン・ブックスに所属する4人の作家と芸術家Susan Karen Burton(スーザン・カレン・バートン)、Eluned Gramich (エリネッド・グラミッチ)、Catrin Menai(キャトリン・メナイ)、Elin Gruffydd(エリン・グリフィス)に日本でのクリエイティブ・レジデンスが提供され、文化交流の支援を行います。日本ウェールズ協会と協力して、大阪と東京で公開イベントが開催されます。



ウェールズ・ジャパン 2025 文化プログラム

リテラチャー・アクロス・フロンティアーズ & ウェールズ・リテラチャー・エクスチェンジ: 2匹の龍の物語 - 子どものための物語を通じてウェールズと日本をつなぐ

協力 大阪国際児童文学振興財団 (IICLO) と日本国際児童図書評議会 (JBBY)

大阪・神戸・京都 10月23日～ 11月4日

@literatureacrossfrontiers | @jbby_kodomonohom | @iiclo_official

リテラチャー・アクロス・フロンティアーズ(国境を越える文学)は、日本の2つの重要な文学団体——大阪国際児童文学振興財団 (IICLO)、および日本国際児童図書評議会 (JBBY) と提携しています。このハイブリッドプロジェクトは、ウェールズと日本の児童書作家や出版社をつなぎ、新しいつながりを築くことを目的としています。絵本作家として高く評価されている長谷川義文とウェールズのイラストレーター Valérian Leblond (ヴァレリアンヌ・ルブロン) と Liz Fenwick (リズ・フェンウィック) を特集しています

MARI WIRTH (ヴィルト マリ) × グリーンバード姫路

姫路・2025年11月14日～ 16日

www.mariwirthpapercutart.com | insta @maritreeleaf | www.greenbird.jp/team/himeji/ | insta @greenbird_official

ウェールズを拠点とする切り紙作家でありイラストレーターでもあるヴィルト マリが故郷の姫路に戻り、世界的に高く評価されているグリーンバード姫路と協力して、持続可能性とグリーン社会を強調します。グリーンバード姫路は、「きれいな街は、人の心もきれいにする。」というコンセプトで、街からゴミを取り除くことに焦点を当てた日本全国に渡るボランティアチャリティです。

RE - LIVE (リ・リブ) : 物語 認知症コミック

協力 社会福祉法 健仁会

2025年10月～ 12月

www.re-live.org.uk | insta: @reliive_arts | fb: @ReLiveArts

ウェールズを拠点とするリ・リブと、日本の社会福祉法人 健仁会が初めて行う創造的なコラボレーションであり、両国に住む認知症の人々、家族、介護者とともに二言語の認知症コミックを共同制作します。このコミックはウェールズ語、日本語、英語で出版され、漫画専門店、認知症ケアサービス、文化施設、政策立案者などに広く配布されます。



wales arts international
celfyddydau rhyngwladol cymru



ウェールズ & 日本
Cymru a Japan
Wales and Japan

Credit: Stephen Meredith



ウェールズ・ジャパン 2025 文化プログラム

PLASGLYNYWEDDW(プラス・グリーン・ア・ウェズウ) × 森純子 & JOHNEGAN(ジョン・イーガン)

Coed/Coexist ウェールズ・ジャパン・レジデンス・プログラム

協力 富士山木材文化協会

富士河口湖町 大石・Llanbedrog (シャンベドロッグ)

2025年11月～12月

www.oriel.org.uk | www.junkomori.com | insta: @plasglynyweddww | @junkomori44 | @making_little

fb: @orielplasglynyweddww | @JunkoMoriMetalwork | www.mtfuji-wcs.org/ | insta @mtfujiwcs

Coed/Coexist(コード・コーイクジスト)は、スリン半島を拠点とするアーティストの森純子とJohn Egan (ジョン・イーガン)が Plas Glyn - y - Weddw(プラス・グリーン・ア・ウェズウ)ギャラリーと提携して立ち上げたプロジェクトで、木々や森林に目を向けて、コミュニティ、創造性、環境スチュワードシップを結びながら、これらの生態系への幅広いつながり、欲求、依存を模索しています。これには、選ばれたウェールズの木工家レイ・モリスが日本の富士山木材文化協会です1ヶ月を過ごし、スリン半島では日本人アーティストが1ヶ月を過ごすというレジデンスの交換が含まれています。

カーディフ・アニメーション・フェスティバル

カーディフ・アニメーション・フェスティバル × 新千歳空港国際アニメーション映画祭

北海道 2025年11月21日～25日 | オンライン 2025年12月1日～8日

www.cardiffanimation.com | insta: @cardiffanimfest | fb: @CardiffAnimationFestival

www.airport-anifes.jp | @airportanifes

新千歳空港国際アニメーション映画祭とカーディフ・アニメーション・フェスティバルは、日本とウェールズの持つアニメーションの豊かな歴史と物語文化によって、両国を結びつけます。新千歳空港国際アニメーション映画祭の期間中に、この二つのフェスティバルは北海道で文化交流を行い、ワークショップや若手映画制作者のためのプロフェッショナル育成の機会が設けられ、2名のアニメーターやクリエイティブ関係者のレジデンス、さらに日本の観客に向けたウェールズ・アニメーションの上映が行われます。



wales arts international
celfyddydau rhyngwladol cymru



ウェールズ & 日本
Cymru & Japan
Wales and Japan

Credit: Junko Mori/John Egan



ウェールズ・ジャパン 2025 文化プログラム

RHODRI DAVIES (ロドリ・デイヴィス) : 日本ツアー

東京・京都・大分・大阪・北海道 2025年2月14日～ 24日

www.rhodridavies.com | insta: @rhodrijd | fb: @rhodritelyn

高く評価されているウェールズの実験的ハープ奏者ロドリ・デイヴィスが、日本ツアーを行います。ツアーは5つのコンサートと1回の録音セッションで構成されます。デイヴィスは、20年以上にわたりフリー・インプロヴィゼーションや実験音楽の分野で、遠藤ふみ、蒼波花音、すずえり、秋山徹次などの日本人の音楽家とコラボレーションをしてきました。

PYS MELYN (ピース・メリン) : 日本ツアー

2025年12月

www.linktr.ee/pysmelyn | insta: @pysmelyn | fb: @pysmelyn

Pys Melyn (ピース・メリン) 初の日本ツアー。東京と大阪のオーディエンスにウェールズ語のサイコポップ・インディーズミュージックをお届けします。

AMGUEDDFA CYMRU (アムゲズヴァ・カムリ: ウェールズ国立美術館) & 大分県立美術館によるアーティスト交流

協力 大分県立美術館

大分 2025年2月14日～ 24日

www.amgueddfa.cymru / www.museum.wales | insta: @museumwales | fb: @amgueddfacymru (OPAM)

アムゲズヴァ・カムリ(ウェールズ国立美術館)と大分県立美術館による長年のパートナーシップの新たな段階として、先住民族の織物技法と模様を焦点を当てたアーティスト・イン・レジデンスが実施されます。ウェールズのテキスタイル・アーティスト、リオ・ジェームズが大分を訪問し、竹工芸家との共同制作、またワークショップを行い、大分県立美術館で作品を展示します。大分の竹工芸家がウェールズを訪問す



wales arts international
celfyddydau rhyngwladol cymru



ウェールズ & 日本
Cymru a Japan
Wales and Japan

Credit: Kuba Ryniewicz



ウェールズ・ジャパン 2025 文化プログラム

るという相互的なレジデンシーの展開が期待されています。

既に実施済みのプロジェクト:

FREYA DOOLEY (フレイヤ・ドゥーリー) & CLARE CHARLES (クレア・チャールズ): AIRK

神戸でのアーティストレジデンス

神戸・大阪 2025年9月1日～15日

Insta: @freya_dooley | @clare_charles_

www.airk.haaymm.org | insta: @airk.kobe

2020 年大分のBeppu Projectsでの滞在制作で培ったネットワークとリサーチを基盤に、ウェールズを拠点とするアーティスト、フレイヤ・ドゥーリーとクレア・チャールズが神戸の AIRK にて 2 週間の特別レジデンシーを行いました。二人は、社会的かつ協働的なリスニングの実践に焦点をあて、新たなサウンド作品とオンライン・ラジオ放送の制作に取り組みました。

HEATHER PARNELL (ヘザー・パーネル) & SUE HUNT (スー・ハント) 出会い、作り、つながる-芸術と健康

Art Spot Korin、近畿大学アート&耳原総合病院

大阪・京都 2025年8月3日～31日

www.heatherparnell.wordpress.com | suehunt.co.uk | insta: @heatherwinterparnell

@sue_hunt_paintings | @masa_kawanaka | @askyori

ビジュアルアーティスト、ヘザー・パーネルと純粋芸術家スー・ハントは、京都のArt Spot Korinで、紙、包装、贈り物の芸術に焦点を当てた1か月間のレジデンシーを行いました。その間に、大阪では近畿大学と耳原総合病院と共に芸術、健康、ウェルビーイングに焦点を当てたワークショップを開催し、専門能力開発のための交流を行いました。

TESSA GRAY (テッサ・グレイ) & 共同制作者 - CHOCI LONI MEETS TOBIUME (CHOCI LONIがTOBIUMEに出会う)

カーディフ 8月25日～9月3日

tessgray185.wixsite.com | insta: @tessgrayart

本企画は、ウェールズの影響力あるポストパンクバンド、The Young Marble Giants (ザ・ヤング・マーブル・ジャイアンツ)の楽曲「Choci Loni」と横田進のトラック「Tobiume」に名前を由来し、精神性やアイデンティティ、調律、フレーズ、普遍的なリズム、そしてウェールズと日本が交差する「心の出会い」となります。6人のアーティスト(日本人3名)が実験的な音楽、動き、視覚的な旅、そして心穏やかにする安らぎの魔法の場を作り出しました。木村怜奈(ダンサー/振付家)、Ichi (音楽家/パフォーマンス)、青柳玲子(マルチメディア・ビジュアル)、アヌシエ・ヤーネル(ダンス/パフォーマンス/ビジュアル)、Ya Yonder (音楽家/パフォーマンス)、テッサ・グレイ(ビジュアル/パフォーマンス)

ABERYSTWYTH INTERNATIONAL CERAMICS FESTIVAL (アベリスウィス国際陶芸祭)

Euan Craig (ユアン・クレイグ)と西川郁

アベリスウィ 2025年6月27日～29日

internationalceramicsfestival.org | insta: @icfaberystwyth fb: @ICFAberystwyth

サステナビリティを重視した制作活動を行う日本出身の代表的な陶芸家ユアン・クレイグと西川郁の2人が、ウェールズのアベリスウィスで開催された2025年の国際陶芸フェスティバル(ICF)でその実践を紹介しました。人間国宝の弟子でもあるクレイグは伝統的な陶芸技法を披露し、エコ窯を作りました。一方、西川は、陶器を金継ぎによって修復する日本の伝統技法を用いた現代的なワークショップを行いました。

Arts Council of Wales: @celfcymruarts | www.arts.wales

WAI: @waicymruwales | www.wai.org.uk

British Council: @britishcouncilwales | @jpbritish
www.wales.britishcouncil.org | www.britishcouncil.org.jp

Welsh Government: @walesdotcom | @walesjapan | www.wales.com

Wales Japan Eki Stamp created by
Jonathan Edwards, commissioned for
Welsh Government's Year of Wales and Japan 2025
Jonathan-e.com | @jontofski

